

## 嬉野医療センターを受診された患者さまへ

### 研究情報公開について

通常、臨床研究を実施する際には、文章もしくは口頭で説明・同意を行い実施します。臨床研究のうち、患者さまへの侵襲や介入もなく診療情報等の情報のみを用いた研究については、国が定めた指針に基づき「対象となる患者さまの一人ずつから直接同意を得る必要はありません」が、研究の目的を含めて、研究の実施についての情報を公開し、さらに拒否の機会を保障することが必要です。

当院では下記の臨床研究を実施しております。本研究の対象に該当する可能性がある方で、診療情報等を研究目的に利用、または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先へご連絡ください。

研究課題名	当院におけるアナモレリンの使用状況について
研究責任者（所属名）	薬剤部 北御門 由依
本研究の目的	がん悪液質は、がん薬物療法への忍容性だけでなく、がん患者の生活の質（QOL）を低下させる。また、予後を悪化させる因子でもあることが示唆されている。がん悪液質に対する治療介入の臨床的意義は、食欲を増進し、主に骨格筋や臓器組織から構成される除脂肪体重 [Lean Body Mass (LBM)] の減少（体重減少）を阻止することであり、有用な治療薬及び治療法が臨床現場で必要とされている。ペプチドホルモンの一種で食欲を制御するグレリンは、成長ホルモン（GH）放出促進因子受容体タイプ 1a（GHS-R1a）の内因性アゴニストである。グレリンは、GH 分泌促進や食欲亢進作用に加え、体重増加、脂肪生成促進、糖代謝への関与、消化管運動調節、サイトカイン産生抑制等の生理作用を示すことが確認されている。グレリン様作用を有するアナモレリン塩酸塩は、GHS-R1a を介した GH 分泌促進作用、食欲亢進作用が確認され、がん悪液質治療に対するメディカルニーズを満たす薬剤として期待されたことから、アナモレリン塩酸塩を有効成分とするエドルミズの開発が進められた。そこで今回、当院におけるがん性悪液質に対してアナモレリン塩酸塩を施行された患者を対象に使用状況を後方視的に調査する。
調査データの該当期間	2021年 7月から2022年12月まで
研究の方法 （使用する試料等）	本研究は、診療録を活用した後方視的研究である。本研究参加において、以下の項目を調査する。 <使用する試料・診療情報等の項目> ■試料なし ■診療情報等(以下の項目を調査する) 年齢、性別、身長、体重、BMI、Performance Status、病期、GLU 値、アナモレリン投与期間
個人情報の取り扱い	利用する情報から、氏名や住所等の患者さまを直接特定できる個人情報は削除

	した状態で取り扱われます。研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さまを特定できる個人情報は一切利用しません。
本研究の資金源 (利益相反)	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
お問い合わせ先	電話：0954-43-1120 (代表) 担当者：管理課長
備考	